

Euphoria

1 = B $\frac{4}{4}$
♩ = 120

(第30届国际信息学奥林匹克竞赛主题曲)

じん 作词
じん 作曲
UNIDY 记谱

演唱: IA

(5 - - - | 5 - - 2 1 | 2 1 1 - - | 1̣. 7̣ 7̣ 6̣ 5̣. 3̣ 2 1 | 2 3 3 - - |

3 - 5. 6 6 1̣ | 2̣ 1̣ 1̣ - - | 1̣ - - 1̣ 5 6 | 1̣. 5 6 5. 3 2 1 | 3. 5 5 5 5. 1 3 |
その 日、眺めてい た 校庭 は 薄

5. 6 5. 3 2 1 | 6 6 1 1 1 1. 5 6 | 1̣. 5 6 5. 3 2 1 | 3. 5 5 5 5. 1 3 |
く 青い 空 が 染みていて 不意 に ガランとした 教室 に 君

5. 3 6 5. 2 3 | 2. 1 1 1. 5 6 || 1̣. 5 6 5. 3 2 1 | 3. 5 5 5 5. 1 3 |
は も う、い な かつた 昨 日 読めな かつた 小説 の 消え
の 向こう には、自 分 が いて あど

5 5 3 6 5. 3 2 1 1 | 6. 1 1 1 1. 5 6 | 1̣. 5 6 5. 3 2 1 | 3. 5 5 5 5. 3 4 |
ない 夢 を 見ていた 少年 は 赤 く 光 る 星 を 追っていた それ
け ない 笑 顔 で 呼んでいる き っと、先 に たどり 着いた んだ 消え

5. 5 6 5. 1 1. 1 2 3 | 2. 1 1. 1 7 1 | 3. 5 5 3 2 1 7 1 | 7. 6 5 5 5 4 5 |
の 一 つ に なりた かつた 強 く 願 え ば 願 う ほど もどか
ない うち に、 行か な く ちゃ 傷 が 痛 め ば、痛 む ほど 進 む

1 5 4 5 1 1 5 3 2 | 1 2 3 3. 1 1 2 | 3 1 1 6 1 1 1 1 2 | 3 4 3 6 5 1 2 3 |
しい 言 葉が、 喉 を 伝 う 最 終 の 電車 の 窓 に 映 り 込 む 自 分
べき 指 針が 強 く 浮かぶ 始 ま り の 合 図に、 鼓 動 が 高 鳴 る 変 わ ら

转1=C

4. 4 3 4. 5 6 | 5 - 6 - | 5 5 5 6 1 1 1 6 5 | 5. 5 5 6 1 1 1 6 5 |
は、 誰 に 見 え る? あ あ、 青春 の 在 り 処も 幸 福 の ルー ルも

4. 5 5. 6

ない、 いつ も の 音 で あ あ、 青春 の 在 り 処も 本 当 の ゴー ルも、
あ あ、 少年 の 僕 らよ 心 の 中 に、

5. 5 5 6 1 1 1 6 5 | 5. 5 5 1 2 2 3 2 | 2 1 1 1 1 5 1 2 2 3 2 |
見 つ か っ て な い か ら 泥 に 塗 れ た っ て 足 が 縫 れ た
ま だ 先 に あ る か ら き っ と 大 人 た ち も 幼 い 子 供 み た
戸 感 い が あ る な ら き っ と そ れ 自 体 が き っ と こ の 世 界

2 1 1 5̣ 5̣ 2 3 2 2 1 2 | 2. 22 5 i i i i 6 5 | 5 - 6 5 3 2 1 |
 って 探 している んだ ろう 探 して いく んだ ろう あ
 い に 続 けて いる んだ ろう 続 けて いく んだ ろう あ
 で 一 番 綺 麗 で、 眩 しい 想 い だ ろう あ

5. 5 6 i i i 6 5 | 5. 5 5 6 i i i i 6 5 | 5. 5 5 6 i i 2 3 |
 あ、 少 年 の 僕 ら よ 情 熱 の 日 々 も、 約 束 も ま た
 あ、 少 年 の 僕 ら よ 戦 い の 日 々 は、 ず っ と こ れ か ら
 あ、 青 春 の 在 り 処 の そ の 一 ペ ー ジ の そ の 先 で ま た

3. i i 4 3 i i 6 i | i. i i 4 3 2 2 i i i | i 5 5 5 5 i 6 i i 2 |
 消 え て し ま う な ら 過 ぎ 去 っ て し ま う な ら こ こ に 残 そ
 瞳 の 奥 で、 心 の 側 で き っ と 輝
 君 は 笑 顔 で、 泣 き そ う な 声 で そ っ と 眩

i - i. 12 | 5 3 2 2 1 5 5 3 2 2 1 1 | (1 5 - - | 6 - - 6 5 6 | i - - - |
 う 同 じ 世 界 に、 立 っ て いた ん だ と
 く 君 は も う 気 付 い て いる ん だ ろ う
 く 「同 じ 世 界 に、 立 っ て いた ん だ」と

6. 5 5 3 3. 2 2 1 | 2. 3 3 - - | 3 - 5. 6 6 i | 2 i i - - | i - - i) 5 6 :||
 道

(5 - - 1 | 2 - - 7 | 1 - - 1 5 6 | 5 - - 5 6 i | 3. 6 6 i i 5 6 i |

3. 5 5 i i 2 i | i i i i 2 i 6 5 | 6. i i 2 i.) 5 6 | 2. 1 1 2 2 3 2 2 2 1 |
 不安 と、 消 え ない 恐 怖 を

2 3 5 5 2 3 3 3 3 3 | 4. 5 6 6 1 2 3 2 | 2 1 1 - 5 6. | 2. 1 1 2 3 5 5 3 |
 引 き 連 れ て 飛 べ ない ま ま、 羽 ば た く ん だ 自 然 と、 そ の 場 所 が 理

5 6 i i 2 6 5 5 6 5 | 5 3 2 2 1 6 1 3 2 | 2. 6 5 6 5 5 5 | 1 - - - | 1 - - - |
 由 に な る っ て 誰 よ り も、 期 待 し て い る D.S.

1 - - 1 1 2 | 5 3 2 2 1 5 5 3 2 2 1 1 | 1 - - - ||
 「同 じ 未 来 に、 立 っ て いる ん だ」と